

**第12回 県立都市公園のあり方検討会 明石公園部会**  
**発言要旨**

- 1 日時 令和5年10月3日(火) 13:00～15:30
- 2 場所 明石公園
- 3 出席委員  
高田部会長、嶽山副部会長、村上委員、兼光委員、河本委員、小林委員、辰巳委員、丸谷委員、溝渕委員代理、水田専門委員、山中専門委員
- 4 内容 現地視察

**5 発言要旨**

視察に先立ち、高田部会長より、設置要綱第4条第2項に基づき水田周一氏及び山中正宏氏の2名が専門委員に任命された。事務局より行程等について説明した後、公園内の視察を行った。

委員等からの主な発言は以下のとおり。

**(1) 稲荷曲輪北**

○樹木伐採により日が当たるようになった結果、草が生えてくるようになり遷移が進んできた。どう対処するのか考えなければならない。(丸谷委員)

**(2) 桜堀西**

○樹木伐採によって桜堀南側の石垣が見えるようになり、時代毎の石の積み方の違い等も分かるようになった。課題として、石垣の面から生える樹木や草を除去していかなければならない点がある。(事務局)

○そもそも桜堀南側の樹木を切る理由は、園路を通り抜けできるようにするためという説明であったが、伐採後も立ち入り禁止にしているのはなぜか。(丸谷委員)

○指定管理者から石垣自体の安定性に不安があると言われているため現在も立ち入りを禁止している。来年度以降、石垣のレーザー測量を実施し、データに基づいて変状を把握していく予定である。(事務局)

**(3) 稲荷曲輪上部**

○石垣の面から多くの樹木が生えてきている状況であり対処が必要である。(事務局)

○石垣の縁から生えているウバメガシはかなり危険。いつ倒れてもおかしくない。(小林委員)

○ウバメガシは、昔は大きくなるまで置いておく木ではなかった。(高田部会長)

○薪を使っていた頃には、定期的に切って備長炭として使用していた。(丸谷委員)

○明石高校の生徒がボランティアで草刈りをしてくれた箇所があるが、1年が経過し、

草が繁茂してきている。(事務局)

- 明石高校の生徒達は、専門家の意見を聞きながら絶滅危惧種等を避けて作業を行った。そういった作業をボランティアで定期的実施できればよい。(丸谷委員)
- 現在は石垣の面に生えた樹木のため、石垣が見えない状態の箇所であるが、今後は、石垣が見える状態で管理する方針か。(高田部会長)
- 樹木が石垣を動かす懸念もあるほか、石垣のデータをとるためには石が見えている必要があるため、測量の前には樹木を除去したい。(事務局)
- 石垣と樹木の気持ちを考えたときに、双方にとって望ましくない状態になっている。石垣は石垣でしっかり見せ、樹木は樹木で希少なものについては他の場所で健全に育てて管理するという考え方を明確にした方がよい。(高田部会長)
- なるべく木は切らないことは前提としてあるが、石垣を補修する際には、どうしても取り除かなければならない木が発生する。また、木によっては石垣を壊すということも実際に起こる。(水田専門委員)
- 石垣の面から生えている小さい木々は過去に伐採したことがあるのか。(辰巳委員)
- 1年程度で生えてくるため、毎年刈らなければならない。(丸谷委員)
- 過去に切ってはいるが、すぐに生えてくる。石垣の面での除去作業は非常に困難であるため、毎年刈るのが難しい状況。(事務局)
- 緑陰があれば木も生えにくいですが、上部の木を切ったことで日光が当たるようになり、石垣の面からも木や草が生えてきてしまう。管理費用もかかる。(丸谷委員)

### (3) 本丸北西

#### 【A177 アラカシ】

- 石垣の際に生えており、成長することで石垣を壊す恐れがある。また、周囲には実生の幼木が多く生えてきているが、草刈りに合わせて刈りたいと考えている。(事務局)

#### 【A176 サクラ】

- 石垣の天端付近に生えているため伐採対象としたい。(事務局)

#### 【275 サクラ】

- 梢端の葉が枯れていないので、今のところ根はそこまで傷んでいないと思われるが、幹の途中で折れたり、幹に穴が空いたり、ところどころ傷んできている。(山中専門委員)
- 相当大きく根を張っている。もし倒れると、裏込め石や石垣内の土を根こそぎ持っていってしまうと考えられるため、伐採対象としたい。(事務局)
- 判断が難しい。石垣のためにはよくはないと思うが、個人的には切らなくてもよいと感じる。石垣を現状のまま維持するのであれば、今のところは問題なく、すぐに

- 根が石を押すということはないと考える。石垣の状態も悪くない。(水田専門委員)
- 根元から切る必要はない。石垣から3mほど離れている。枝が外向きに伸びていることに懸念があるのであれば、剪定することにより対処すればよい。(小林委員)
  - 切らなくてもよいと考える。成長過程にある樹木の場合は、根が石を巻き込んだり、石を押し出す危険があるが、大きくなり成長速度が落ちてきた木の場合には、倒木の危険性が出てきたものを除き、健全という判断ができるのであれば残してよいと考える。(嶽山副部長)

#### 【277 ウバメガシ】

- 石を巻き込んでおり、倒木時には間違いなく石垣と一緒に崩れる。(水田専門委員)
- これは危ない。皆で備長炭にすればよい。(丸谷委員)
- 明石城の修復の際には、皆で炭をつくったことがある。(水田専門委員)

#### 【278 ウバメガシ】

- 斜め上に向かって傾いており、反対の方向の石垣の裏込めの深くまで根を伸ばしていると考えられる。そのため、木が風等で倒れた際には、石垣ごと破壊する可能性がある。(事務局)
- 根は反対方向だけに伸びるのではなく、全体に根を張るものである。(丸谷委員)
- 広葉樹は傾いた場合、引き戻すような形で反対側に根が発達する。当然、全体的に根を張るが太くなるのは反対側。また、ウバメガシの根は直下だけでなく、更に横に伸びるという特性を持つ。根は恐らく裏込め石に入り込んでいるものと推測する。(山中専門委員)
- まだ、石垣が崩れるほどまでにはなっていない。(小林委員)
- 天端から1.5~1.6mほどの距離しかない。石垣は、表面の石だけではなく、裏に裏込め石という石が入っているため、天端から遠ければよいというものではない。(事務局)
- ウバメガシには備長炭にするなど他の利用価値がある。他の活用方法を考えればよいのではないかと思う。(山中専門委員)
- 総合的に考えればよい。(小林委員)

#### 【279 ヌルデ】

- 周囲に何本か生えている。天端からかなり近いところに生えており、枝も外に向いて生えているため、伐採対象としたい。(事務局)

#### 【280 ウバメガシ】

- 天端から1.6~1.7mほどの距離に生えている。また、柵を一部破壊している。(事務局)

- 278 と 280 のウバメガシについて、石垣への影響という観点もあるが、2本とも切ってしまうと、緑陰の消滅によって日光が当たるようになり、周辺の環境を大きく変えることになる。伐採によってどのような影響が出るのか、しっかり議論した方がよい。(高田部会長)
- ここは元々笹が大量に繁茂している場所であるので、恐らく日光に関係なく笹は生えてくる。違う植物が生えてきても笹が優勢になるかと考える。(事務局)

**【281 アベマキ】【282 ウバメガシ】**

- 2本とも天端から距離が近いうえ、アベマキはかなり大きく育つ木であるので、伐採対象としたい。(事務局)
- 柵が斜めになって動いているのは、この木の影響か。(辰巳委員)
- 2本の影響かと考えている。(事務局)
- アベマキにフジが巻き付いており、枝の先がかろうじて生きている状態。かなり弱っているように見える。(高田部会長)
- ぱっと見では葉があるように見えるが、ほとんどフジの葉である。樹皮も弱々しい。(山中専門委員)
- 樹皮の感じからしても全体的に弱っているかもしれない。(小林委員)

**【283 ウバメガシ】**

- 天端付近に生えており、石垣への危険性が高い。(事務局)

**【284 ウバメガシ】**

- 枯れているため撤去する。(事務局)

**【285 ウバメガシ】**

- 実際に石を浮かしている。石垣への影響が明らかであるため、伐採しなければならないと考えている。(事務局)
- 石垣を動かしている樹木を切った場合、石垣にはどんな変化が起こるのか。(辰巳委員)
- 根が腐って空洞になると、そこにまた木が生えて更に石垣が崩れる。ウバメガシの場合であれば、切っても切っても生えてくるのではないかと思う。(水田専門委員)
- 樹木を切った後には、石垣の積み直しが必要になるのか。(高田部会長)
- 石垣を直そうと思ったら、抜根が必要になるため大変な工事になる。簡単にその周辺だけ修繕するということができないため、石垣の根元から全て積み直すことになる。(水田専門委員)
- このまま木を放置することも危険だが、切った場合にも崩れる恐れがあるということ。(辰巳委員)

- 石垣は少々膨らんできても、そうそう簡単に崩れるものではない。ただ、災害が発生した場合には突然崩れる。岸和田城では危ない危ないと言われつつ何年も保っていたが、大雨で突然崩れている。明石城でも、地震には耐えたが、その後の雨で崩れた箇所がある。(水田専門委員)
- 明石城の国旗掲揚台では、震災時の倒木により石垣が崩れた箇所があったが、その周囲は崩れなかった。大木が石垣の際に生えていると、石垣を崩す可能性が高いことは間違いない。ただ、何もない時に勝手に崩れるということはないと考える。(水田専門委員)
- 伐採後にそのまま放っておくとすぐに萌芽するのでどうするのかという問題がある。芽が出るたびに切っていくにも、相当な手間がかかる。(小林委員)
- 木の根が石を浮き上がらせている状態である。この石は災害時に人を殺傷する可能性があるため、木を残すとしても、石をこのままにすることはあり得ない。ただ、史跡の石を動かすためには、国の許可を得なければならず、国からはなぜ本来そこになかった木を残すのかと聞かれることになる。その質問に答えられるだけの理由を持っておかなければならない。(村上委員)
- 短期的なリスクと長期的なリスクを分けて考えると、短期的なリスクとしては、災害時に人に危害が加わる可能性がある。長期的なリスクとしては、森林の針葉樹の場合には、伐採後 20 年で空洞化して急激にリスクが高まるという研究がある。石垣とは条件は異なるが、リスクは徐々に高まるのではなく、突然高まるということである。木を切る場合にも、長期的リスクにどう対処するかを考えなければならない。(高田部会長)
- そのために測量をして定期的に石垣の様子を観察するということか。(辰巳委員)
- レーザーを使用することで、安価かつ正確に状況を把握できる。(事務局)
- 切った木の根が徐々に空洞化していくということも確認できるのか。(辰巳委員)
- 観察が可能であると考えているが、そういった試みは全国的にも情報が蓄積されておらず、どこまでできるのかは未知数。とにかくデータをとることから始めていきたい。(事務局)
- 切った後の対処についても管理基準に組み込むことが重要。(高田部会長)

**【287 ウバメガシ】**

- 石垣の天端付近に生えているため伐採対象としたい。(事務局)

**【293 アキニレ】**

- 枯れているため撤去する。(事務局)

**【290 アキニレ】【A178 アベマキ】【292 エノキ】**

- 石垣の天端付近に生えているため伐採対象としたい。(事務局)

【295 アキニレ】【296 アキニレ】【297 モッコク】

○石垣の天端付近に生えているため伐採対象としたい。(事務局)

【298 サクラ (経過観察木)】

○相当弱っているため、そのうち枯れてくると考えられるが、外に向いている枝を落として経過観察にする方針。(事務局)

○アベマキに覆われて日が当たらなくなっている。(小林委員)

○一般論では、ソメイヨシノは剪定すればするほど弱っていくものであり、個人的には、瀕死の状態では枝を切っていく方がかわいそうに思う。(高田部会長)

○明石公園では、サクラは残せるものは残すという方針で管理してきたが、既に弱っているため伐採することも検討してよいかと考える。(山中専門委員)

○石垣に影響がある木だけでなく、大切な木は、価値のある木として位置づけて残していくための管理方法も今後検討しなければならない。(高田部会長)

【299 ウバメガシ】

○石垣の天端付近から生えているため、伐採対象としたい。(事務局)

【300 サクラ】

○木の根元の2つの石が飛び出しており、木の根が影響しているのではないかと考えている。また、石垣の縁に生えていることもあり、伐採対象としたい。(事務局)

○今すぐ切らなくても経過観察でよいのではないか。(丸谷委員)

○石垣自体がそもそも野面積みであり、がたがたなものである。動いていないとは言えないが、木の根だけで押しているとは思えない。(水田専門委員)

【874 サクラ】

○石垣の面から生えており、伐採しなければならないと認識しているが、分布上価値があるということを聞いている。(事務局)

○このウスゲヤマザクラは県内でも数ヶ所しかない。レッドデータに載っている木ではないが、比較的少なく、明石公園内には2箇所しかない。この木にどのような価値があるのかもまだ分からないため、残しながら調べていきたい。上にまっすぐ生えている枝と斜めに生えている枝に分かれており、石垣にモーメントをかけていることは十分考えられるため、斜めに生えているものは切るという方法もある。(小林委員)

○このまま残すわけにはいかないため、接ぎ木や差し木、あるいは小林委員が提案されている手法も含めて対応を検討していきたい。(事務局)

【862 ウバメガシ】

○石垣の面から直接生えているため伐採対象としたい。(事務局)

【859 クスノキ】

○木の幹が石垣の中に入り込んでいるため伐採対象としたい。(事務局)

【852 イヌビワ】

○石垣の縁から生えているため伐採対象としたい。(事務局)

【858 モチノキ】

○石垣の下に入り込んでいるため伐採対象としたい。(事務局)

○石垣の縁に木が並んで生えているのにはどういった経緯があるのか。(丸谷委員)

○現在柵があるところには元々土塀があった。木の樹齢は100年を越えていることから、土塀が傷み始めた明治の始め頃に土塀を撤去し、代わりに木を植えたのではないかと考えられる。柵から外側の地面には、土ではなく裏込め石が入っており、そんなところにわざわざ木を植えるということは、そういう経緯があったのではないかと想像できる。(村上委員)

(4) 桜堀東南

○当初は伐採対象としていたエリアだが、エリア全体を経過観察としたい。(事務局)

○震災時には、ここの通路が全て埋まるほど石が崩れた。(村上委員)

○石工の方も、木を切ってしまいたいと考えているわけではない。積み直す際には、どうしても取り除かなければならない部分があるということは理解してほしい。(村上委員)

(5) 箱堀西

○木が倒れ、石も一緒に落ちている箇所がある。幸い箱堀の内側に落ちているため、人的な被害はなかった。(事務局)

○大雨の際に、木が腐ってできた隙間に水が入ると怖い。(高田部会長)

○箱堀の縁にある樹木は基本的に全て伐採する必要があると考えているが、内側は希少な植物等への配慮が必要であり、また、伐採を実施する際の施行方法も検討しなければならないため、今後、専門家の意見も聞きながら考えていきたい。現時点では、伐採の必要性があるということだけ認識いただければと考えている。(事務局)

【508 エノキ】

○既に石垣を崩しており、根も入り込んでいるため伐採対象としたい。(事務局)

## (6) 箱堀北

- 既に石垣を崩している箇所があるほか、大木が斜めに生えるなど、箱の形を崩しかねない状況になっている。箱堀内部に人が立ち入ることはまずないため、内側に崩れても人への危険性はないと思われるが、通路や、隣接する保育園に被害が出る恐れがあると考えている。樹木を伐採すると周囲の環境が大きく変わることになるため、慎重に検討を進めていきたい。(事務局)

## (7) ふりかえり

- 伐採対象の樹木については、275のサクラは枝を切って残したほうがよいという意見や、ウバメガシは備長炭にする等の活用方法があるという意見等があった。経過観察の樹木については、弱っているサクラについて、剪定して残す方が可哀想なので、むしろ切るほうがよいという意見があった。また、天守台のアベマキだけでなく手前のアベマキもシンボルとして位置づけるべきという意見があった。(事務局)
- 今回は現地の状況を確認いただいたが、次回の部会では出た意見を整理し、対応案を示したい。(事務局)
- 今回、現地の状況を皆で確認したことで、新たな視点が出てきた。1点目として、樹木管理にもいくつかの理由があるということが分かった。これまでは、文化財の保護と、利用者の安全性という2つの観点で議論してきたが、樹木の健全な生育環境を守るために木を切るという観点や、緑陰があることで草が生えず植生管理の効率が上がる、あるいは、緑陰が周辺環境を守るという観点があった。こういった考え方も加えて議論していく必要がある。(高田部会長)
- 2点目として、樹木をただ切るのではなく、伐採して活用するまでのサイクルが見出された。今回、緊急的に対処する必要がある樹木はウバメガシが多かったが、日本では伝統的に大きくなるまで放置してこなかった樹種であり、巨木になる前に切って、備長炭として活用してきたという文化がある。明石公園においてもこういった文化的な営みを管理の中に組み込み、その木の持つ社会的な背景を共有したうえで、公園の資源として活用していければよい。(高田部会長)
- 石垣に生えている木をどうするかという点では、石垣をあるべき姿で綺麗に見せてあげるといふ管理も必要であり、大切に管理する樹木と石垣とが共存する景観を作ることが重要。今回は安全のための緊急的な樹木について確認したが、箱堀を含めた他の樹木については、今後、定常的な協議の場でも考えながら管理していくことになる。継続的に民主的な手続きがなされるよう、部会を閉じた後の体制についても、残りの部会で議論していきたい。(高田部会長)

以上